

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	木材需要拡大PR研修会「木の魅力を知り木を学ぶ現地体験研修会」(継続)
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県田村市船引町大字横道字横大道国有林 平成22年11月22日
取組の背景及び必要性	<p>日本の人工林は資源的な充実が進み、大手住宅メーカーにおいても、外材主体から国産材に転換する動きもある状況の中、国産材の需要をより安定的なものとするためには、川上から川下へ積極的に情報を発信することが重要である。</p> <p>住宅資材において、地域材の利用を更に促進させるためには、流域内の各機関、団体が連携して地域材の特徴・魅力を広めるとともに、地域材を利用することによって多面的な機能を発揮する健全な森林が育成されることへの理解が促されるよう川下側の建築関係者に対する普及を行う必要がある。</p>
取組の内容	<p>建築技術者をめざす実業学校(建築科)の学生を対象に、木材の生産現場から建築材として利用されるまでの流れを実際に見て・感じ・考えてもらう研修会を阿武隈川流域林業活性化センター、田村森林組合、郡山地区木材木工工業団地協同組合等との連携により実施した。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催、田村森林組合、郡山地区木材木工工業団地協同組合、福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発校と連携、協力現地説明

【参考資料】

取組名 木の魅力を知り木を学ぶ現地体験研修会

○ チェンソーによる伐倒作業



○ 高性能林業機械による集材作業



○ 高性能林業機械の性能を確認



○ 丸太の集積状況（山元土場）



○ 森林組合での製材工程



○ 国産材使用の軸組建築現場

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	公共土木事業における木製資材利用現地研修会（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県岩瀬郡天栄村大字牧之内権太倉国有林 外 平成22年11月26日
取組の背景及び必要性	間伐材の利用拡大の推進に向けては、公共土木事業においても発注者自らが間伐材の利活用を進めていくことが重要である。そのため、国有林、民有林における関係者が木材の利用促進の効果やコンクリート等に代わる木材利用の拡大に当たっての課題等について共通認識を図る必要がある。
取組の内容	阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した本研修会では、間伐材等を使用した民有林道、国有林治山施工地において、木材の使用状況を確認するとともに、施工に当たっての工夫や課題等について討議を行い、技術や課題の共有化を図った。
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 研修会の企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催。県農林事務所、県林業協会と連携、協力。 参加者募集、現地説明

【 参 考 資 料 】

取 組 名 公共土木事業における木製資材利用現地研修会（継続）



- 民有林道における木材使用状況
（のり面の保護と除草効果を期待）



- 発注者（福島県県中農林事務所）
から木材の使用状況等を説明



- 国有林野内治山事業施工地
における木材使用状況



- 発注者（福島森林管理署白河支署）
及び施工者から木材の使用状況等
を説明

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	間伐推進技術検討会（列状間伐現地検討会）（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ嶽国有林 平成22年11月29日
取組の背景及び必要性	<p>「森林・林業再生プラン」において、切り捨て間伐から利用間伐への転換が方向付けされた。</p> <p>高性能林業機械等による作業システムにおいて、間伐材の搬出に有利な列状間伐については、管内国有林において定着してきているが、民有林においては限定的な採用に留まっている。</p> <p>利用間伐を推進し、流域内の木材の安定的な供給体制を構築するには、民有林所有者・行政担当者の列状間伐への理解が必要である。</p>
取組の内容	<p>国有林において、過去（3年前、7年前）に列状間伐を実施した林分の経年変化を現地において確認することにより、列状間伐の有効性を認識してもらうとともに、県の試験研究機関から「列状間伐の得失」と題した調査結果を発表してもらい、列状間伐の効果的な実施を目指した検討会を阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した。</p> <p>検討会では、生産性の向上を目指す林業事業体、民有林家を指導する市町村、列状間伐を先駆的に行っている国有林等それぞれの立場から普及・定着に向けた意見が交わされた。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 企画運営、現地説明
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催 福島県農林事務所、同県林業研究センター、林業事業体と連携、協力：参加者募集、現地説明

【参考資料】

取 組 名 間伐推進技術検討会（列状間伐現地検討会）（継続）



←
列状間伐実施後3年経過した林分（伐採・搬出した業者より、当時の状況等について解説）

→
列状間伐実施後7年経過した林分（林冠が閉鎖し、間伐効果が出現している状況を確認）



←
福島県林業研究センターの主任研究員より「列状間伐の得失」と題した試験研究成果を報告

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	森林公益的機能PR推進事業（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	別表のとおり
取組の背景及び必要性	<p>近年、森林が有する水資源かん養等の公益的機能に加え、地球規模での環境問題、生物多様性に対する森林の役割等、森林の多面的機能の発揮等への期待や関心が高まっている。</p> <p>このため、地域ニーズを把握した上で、森林環境教育プログラムの実践活動を関係者が連携し、効果的な取組を推進する必要がある。</p>
取組の内容	<p>森林の持つ多面的機能について普及するため、小学生や広く市民を対象とした、森林教室、体験林業、自然観察等の森林環境教育プログラムを実施した。</p> <p>また、流域内の各機関とも連携し、各種イベント等への積極的な参画により、効果的に取組を推進した。</p> <p>（取組毎の詳細については、別表を参照）</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 フィールド提供、現地指導等
連携協働相手先・役割	連携協働相手先：別表のとおり 役割：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名		森林公益的機能PR推進事業（継続）				
別表						
平成22年度 森林公益的機能PR推進事業実施状況						
NO	実施年月日	名称	場所	連携機関	参加人数	主な取組内容
①	H22.6.20	吾妻山姥原植生復元ボランティア	福島市土湯温泉町鷺倉山国有林	吾妻山自然倶楽部	20	吾妻山周辺森林生態系保護地域内の歩道周辺の踏みつけなどにより植生が消失した箇所の植生を復元させるボランティアへの指導
②	H22.7.25	茂庭の湖まつり	福島市飯坂町茂庭地内（国土交通省所管地）	国土交通省摺上川ダム管理所	多数	「森と湖に親しむ旬間」関連イベントへの参加（当署は、丸太切り、木工教室の指導、パネル展示を担当）
③	H22.7.25	水源保全ボランティア	福島市飯坂町茂庭茂庭国有林	福島市水道局	100	ダム水源地域の国有林の森林整備（除伐）、森林教室での指導
④	H22.7.28	福島県緑の少年団大会	猪苗代町字五輪原国立磐梯青少年交流の家	福島県緑化推進委員会	121	緑の少年団（福島県内の小学生）に対する講演（題名：もりのおはなし）
⑤	H22.8.20	あだたら溪谷森林探訪会	二本松市永田字長坂国有林（安達太良自然休養林）	阿武隈川流域林業活性化センター	41	安達太良自然休養林における自然観察、森林の多面的機能に対する学習（署と阿武隈川流域林業活性化センターとの共催）
⑥	H22.9.11	ニッセイ船引の森育樹活動	田村市船引町大字上移字入山国有林	日本生命相互会社 郡山支社	49	法人の森における、同社社員による森林整備（下刈）木工教室、森林教室の指導
⑦	H22.9.19～20	湯の里フェスタ・エコハイキング	福島市土湯温泉町猪ノ倉国有林 外	土湯温泉まちづくり協議会	40	ぎまっこの森（8・19）、男浴・女沼周辺（9・20）における自然観察、ゴミ拾い活動の指導
⑧	H22.9.22	福島市立岡山小学校森林環境教育プログラム	二本松市永田字長坂国有林（安達太良自然休養林）	福島市立岡山小学校	97	小学3年生の理科学習の一環による安達太良自然休養林内の自然観察、木工教室の指導、森林の多面的機能等の解説
⑨	H22.10.16	民友の森「親子木工教室」	福島市土湯温泉町猪ノ倉国有林	福島民友新聞社	20	遊々の森における親子木工教室の指導、森林の多面的機能等の解説
⑩	H22.10.17	摺上川ダム「森づくり大作戦」	福島市飯坂町茂庭地内（国土交通省所管地）	国土交通省摺上川ダム管理所	180	摺上川ダム周辺の無立木地における植樹活動の指導
⑪	H22.10.23	幕滝周辺自然観察会	福島市土湯温泉町鷺倉山国有林	福島県自然保護協会	26	吾妻山森林生態系保護地域バッファゾーンにおける生物多様性等を学ぶ観察会（署企画事業）
⑫	H22.10.23	ドコモあだたら森活動・自然ふれあいイベント	大玉村玉井字前ヶ嶽国有林	NTTドコモ 福島支店	94	法人の森における森林整備（除伐）活動の指導、森林の多面的機能等の解説
⑬	H22.10.23～24	福島県林業祭	郡山市安積町成田（福島県林業研究センター）	福島県	多数	福島県主催のイベントへの参加（当署は、丸太切り、木工教室の指導、パネル展示を担当）
⑭	H22.10.30	みんなで創るあぶくまの森協議会森林ボランティア活動	田村市滝根町菅谷地内（仙台平・民有林）	みんなで創るあぶくまの森協議会	85	阿武隈川流域の民有林での森林整備（除伐）活動の指導
⑮	H22.11.20	土湯の森づくりプラン説明会・自然観察会	福島市土湯温泉町日向国有林 外	土湯温泉まちづくり協議会	30	新たに設定したふれあいの森の森づくりボランティア参加予定者への説明会、現地での自然観察会の指導
⑯	H23.3.21（予定）	土湯の森とのふれあいのつどい	福島市土湯温泉町日向国有林 外	土湯温泉まちづくり協議会	30（予定）	ふれあいの森の協定に基づく植樹活動、現地での自然観察会の指導（予定）
合計		実施回数：16回		延べ参加人数：	883名（不特定多数の参加によるイベントを除く）	

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	簡易で丈夫な路網技術検討会（継続）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島県田村市都路町古道字東古道国有林 外 平成22年12月9日
取組の背景及び必要性	<p>「森林・林業再生プラン」の目標を実現させるには、低コストで崩れにくく継続的に利用できる路網の整備を加速化していく必要がある。</p> <p>このため、「森林・林業再生プラン」の作業部会が示す指針を認識した上で、民・国が連携して路網作設に関する技術や課題を共有化させる必要がある。</p>
取組の内容	<p>検討会では以下の視点・立場から路網整備にむけた技術や課題、方向付けを議論した。</p> <p>○民有林で作設した管理作業路（継続的利用を前提とした路網）と、国有林の生産現場における搬出路（間伐材の搬出のみを考えたフォワード道）を比較検討し、簡易で丈夫な路網整備の技術的な視点からの検証</p> <p>○作業部会の最終とりまとめの内容、林野庁における23年度予算概算要求の内容等、制度。政策的な位置付けの認識</p> <p>○継続的に利用する路網の整備にあたって、保安林による制限や必要な許認可等法令・規則からの視点に立った検証。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 関東森林管理局販売課 ：企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催。 福島県農林事務所、ふくしま中央森林組合と連携。 ：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名 簡易で丈夫な路網技術検討会（継続）



← 国有林におけるフォワード道作設状況

→ 民有林における継続的利用作業道作設状況



← 関東森林管理局の担当官を講師に迎えた勉強会及び意見交換会

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	コンテナ苗木植付実演会（低コスト造林研修）（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	郡山市三穂田町大字下守谷字妙見山国有林（平成22年5月18日） 田村市船引町大字石沢字桑柄木国有林（平成22年10月8日）
取組の背景及び必要性	<p>木材価格が低迷する中で、低コスト化に向けた造林技術の普及・定着が課題となっている。</p> <p>当署においては、平成21年度から他に先駆けてコンテナ苗木を導入し、植栽から下刈までの「初期費用」の縮減を目指した実証的な事業に着手しており、コンテナ苗木の成長量等データの蓄積・共有化等による成果の波及が期待されている。</p>
取組の内容	<p>参加者が自らコンテナ苗木の植樹を体験する実演会、コンテナ苗木の特徴や課題等について関係者の認識を共有化させるための検討会を阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した。</p> <p>更に、他へ普及するための成長量等の調査方法や成果の取りまとめに当たっての検討会を、阿武隈川流域林業活性化センター、福島県林業研究センターと連携して実施した。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 同白河支署 ：企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催。 福島県農林事務所、福島県林業研究センターと連携。 ：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名	コンテナ苗木植付実演会（低コスト造林研修）（新規）
-----	---------------------------



←
コンテナ苗木の生産者から、苗木の特徴等について説明

→
参加者全員が、自らコンテナ苗木を実際に植え付け、作業性の良さ等を実感



←
全員でコンテナ苗木の特徴や推進に当たっての課題等について討議

平成22年度 実施メニュー実施結果表

取組名	民・国が連携した森林施業の効率化の推進（新規）
流域名	阿武隈川
実施箇所及び実施日	福島市及び二本松市内の森林1,408ha(民有林825ha国有林583ha) 平成23年2月25日「笹森山地区森林整備推進協定」の締結
取組の背景及び必要性	福島県の森林を健全な状態で次世代に引き継ぐためには、森林の適正な整備や保全、森林資源の循環利用により、低炭素・循環型社会への転換を図るとともに、地域に根ざした力強い産業として林業を再生することが求められている。
取組の内容	<p>民有林と国有林が一体となった「森林共同施業団地」を新たに設定し、効率的な路網整備や間伐の推進に向けて民有林関係者と協議を進め、以下のとおり合意に至った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本年2月21日に関東森林管理局と福島県において、民・国連携による森林整備等を推進するため「豊かな森林づくりに関する覚書」を締結。 ○ 本年2月25日に上記覚書に即し福島森林管理署、福島水源林整備事務所、福島県、林業公社、県北森林組合、水原生産森林組合、の6者により「笹森山地区森林整備推進協定」を締結。
国有林担当部局・役割	関東森林管理局計画課、福島森林管理署 ：民有林関係者との調整、各種情報提供
連携協働相手先・役割	森林農地整備センター関東整備局福島水源林整備事務所、福島県県北農林事務所、福島県林業公社、福島県北森林組合、水原生産森林組合：協定締結者 福島市、二本松市、阿武隈川流域林業活性化センター：関係者との連絡・調整

【参考資料】

取組名 民・国が連携した森林施業の効率化の推進（新規）

○覚書締結式（左：福島県知事、右：関東森林管理局長）



○ 地域協定調印式（6者による調印式）

